

## 学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	斉藤 優理 【理学専攻 平成24年度生】	<p>本論文では、可視化を利用したメディアコンテンツのユーザインタフェースに関する2手法を提案している。具体的には、音楽推薦のためにユーザの嗜好を学習する過程を可視化する手法、画像一括加工におけるユーザの嗜好を学習する過程を可視化する手法、の2手法を提案している。</p> <p>学位論文審査は4回にわたって開催された。本論文では申請者が、メディアコンテンツの学習と可視化という課題について網羅的に多くの問題を解決しており、当該分野の第一人者たる研究成果をあげたことを示している。また本論文の提案内容は、査読付き論文誌2件に掲載され、2件とも表彰されている。これらの十分な研究成果を踏まえて、以下の日程で学位論文審査を実施した。</p> <p>第1回は平成29年6月14日に開催した。提出された論文の内容および問題点を洗い出し、そして第2回目以降の審査方法（申請者本人を呼び出しての審査方法）について審査委員間で合意をとった。</p> <p>第2回は平成29年6月19日、第3回は平成29年7月20日に開催した。いずれも学位申請者による60分程度の研究内容説明の後、各種の質疑を取り交わし、論文内容の修正や改善について学位申請者に指示を出した。</p> <p>そしてその後、平成29年8月30日に、公開発表会および最終試験を実施した。最終試験では、公開審査会にて研究内容を聴講した審査委員および出席者から、研究内容全般にわたって幅広く質問された。学位申請者は全ての質問に対して的確に回答し、本論文の研究内容の完成度の高さおよび、本研究分野における見識の広さと深さを示した。以上の結果から審査委員は、最終試験を合格と判定した。</p> <p>第4回は平成29年8月30日、公開発表会および最終試験の後に開催した。公開発表会および最終試験の内容を踏まえて、論文内容を最終確認した。</p> <p>以上の結果から本審査委員会は、本論文が人間文化研究科の学位、博士（理学）Ph. D. in Computer Science の学位を受けるに相応しいと判断した。</p>
論文題目	多次元属性値可視化による対話的メディアコンテンツインタフェース	
審査委員	(主査) 教授 伊藤 貴之	
	教授 椎尾 一郎	
	教授 小口 正人	
	教授 小林 一郎	
	准教授 萩田 真理子	
インターネット公表	○ 学位論文の全文公表の可否（ <input checked="" type="radio"/> 可・否） ○ 「否」の場合の理由 ア. 当該論文に立体形状による表現を含む イ. 著作権や個人情報に係る制約がある ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている ※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について	

